

2018年1月

わが国の退職給付会計についての一考察

経営学部 経営学科 石田ゼミ
B4R11098 清水奈津実

【卒業論文概要】

近年、日本ではグローバル化が進み、海外へ進出する企業が増加している。それに伴い日本の退職給付会計基準も国際的な会計基準（以下、IFRS という）に合わせるために、2012年に連結財務諸表のみ大幅な改正を行った。そのため、現在の日本の退職給付会計基準では連結財務諸表と個別財務諸表とで会計処理が異なることとなった。

本論文の目的は、わが国の退職給付会計基準の妥当性を検討することである。

まず、始めに退職給付会計がどのようなものであるか、その歴史および個別財務諸表の設例を用いて明らかにした。次に個別財務諸表と大幅な改正を行った連結財務諸表の会計処理を明らかにし、その違いを検討した。さらに、IFRS と日本の会計基準との違いを明らかにすることで、日本がこれからどのように対応していかなければいけないかを検討した。その結果、日本は改正を行ったことでIFRSの会計基準に近づいたが、まだいくつか違う点があることが分かった。日本とIFRSとでは基準の枠組みに相違がみられるため、完全にIFRSに一致させようとするのではなく、連結先行のように変えられるものを変えて、その上で検討・調整をしていくことが望ましいと考えた。